

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価（3月27日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>複眼的多面的なものの見方、論理的対話的で深い学びを実践するためのカリキュラム・マネジメント構築。</li> <li>揺るぎない基礎学力の上に立つ、高度で知的好奇心を刺激する授業づくり。</li> <li>総合的な探究の時間を中心に、根拠に基づく科学的思考力、課題解決力と表現力を養う。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>主体的、対話的で深い学びの授業を土台とし、生徒の探究的な学びにつながる授業づくりにつとめる。そのために個々の教員の授業改善に努める。</li> <li>生徒の課題研究の充実を図るため、総合的な探究の時間を中心に、生徒の論理性・科学的リテラシーを伸ばさせる指導法を組織的に探究する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究授業や研修会等を計画的に実施し、教員の指導力の向上を図る。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台のタブレット端末を活用した授業研究を実施する。</li> </ul> </li> <li>SSH認定に向け、探究活動の課題研究活動における生徒に育ませたい力を全職員で共有し、指導法を探る。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>海外との交流およびその成果を通して、グローバル人材の育成を図る。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>公開授業及び研究協議を年間2回以上実施できたか。また、他校への授業見学を3回以上実施することができたか。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台のタブレット端末を利活用した授業実践に向けた研究会を年間1回以上実施できたか。</li> </ul> </li> <li>外部識者による、課題研究の充実にむけた教員研修会を年間1回以上実施できたか。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>SSH認定後を見据えた海外研修旅行を計画できたか。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>10月6日に公開研究授業と研究協議会を、3月16日に課題研究発表会と研究協議会を実施できた。他校への授業見学は、希望ヶ丘高校をはじめ3校を訪問した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>1学年の授業を担当している教員間において、タブレット端末の使用方法や相互の授業見学が行われていたが、全体に向けた研究会を実施することはできなかった。</li> </ul> </li> <li>外部識者による、課題研究に関する教員研修会は実施できなかった。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>来年度末に理数教育推進をテーマとした海外研修旅行を計画する。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究協議や他校への授業見学で、得た知見やアイデアを職員全体で共有し、教員の授業に還元できる仕組みを構築する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>来年度からは1、2学年において一人一台端末を持つことになることから、より一層、タブレット端末を活用した授業事例を全体で共有し、協議する機会を作る。</li> </ul> </li> <li>課題研究の課題を明確にし、その課題解決に向けた取り組みの中で、研修会を開催する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度より施行している学習指導要領に沿って実施されている授業の取組みやその成果、共通テストへ向けての取組み内容を報告書の中に明記してほしい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学力進学重点校への授業見学や、SSH校への訪問、他県の高校への視察を実施し参加した職員の意識向上にはつながったが、その内容を全職員で共有する機会を持つことができなかった。</li> <li>SSHの申請については1年間見送りとなったが今年度はK-ARPや理数探究基礎の教材開発を中心に取り組んだ。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>職員の意識醸成に向けての外部識者の教員研修会を計画・実施できず、意識をまとめていくことができなかった。</li> <li>R5年度末に理数の探究を主題にした海外研修旅行を企画し実施に向けた準備に入った。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>引続き他校への訪問、授業見学を重ねながら、職員間での共有方法を工夫し、たゆみない授業科改善を推進していく。</li> <li>SSHの申請に向け、引続きK-ARPと理数探究基礎の教材開発を推進し、生徒が主体的に探究的な学びを進めて行けるような体制をつくる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>高校教育課指導主事やSSH先行実施校の担当者等を学校に招き、SSHとなった際の具体的なイメージを職員が共有するための研修会や情報交換会を実施する。</li> </ul> </li> </ol>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会性、協調性、体力、自己管理能力、人権意識を養うための環境整備。</li> <li>部活動の活性化。</li> <li>一人ひとりの個に応じた支援を充実させる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>伝統行事を生徒主体で計画立案および実施することにより、生徒一人ひとりの主体性だけでなく生きる力を涵養する。また社会性、協調性を高め、自己肯定感を高める場面を創出する。</li> <li>生徒が自分に対する人権を意識し尊重するとともに、周囲の人に対する人権をも意識・尊重する指導を推進する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に自己の役割を認識し、創造性を伸ばすような取組みができるよう支援を継続的に行う。また生徒会執行部の活動・部活動・学校行事を執行部や実行委員への支援によって運営し、コロナ禍で可能な限り学校全体の活性化を図る。</li> <li>課題を持つ生徒の情報を広く共有し、適切な対応と指導につなげる。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>SNS関連等のトラブル防止、登下校マナーの徹底を指導行事だけでなく普段からも広く注意喚起を行う。</li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりの主体性と自己肯定感を高めるための行事の準備から終了後の片づけに至るまで、支援をすることができた。</li> <li>コロナ対策を行ったうえで可能な範囲で伝統行事の維持および発展に寄与することができた。</li> <li>諸会議(学年・コア・ケースなど)で情報共有だけでなく、具体的な解決策を模索する機会を設けたか。</li> <li>トラブルや苦情に対し最小限かつ再発を防止することができたか。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で制約がある中、今年度は合唱コンクールも含めて全ての学校行事を実施することができた。各行事においては、生徒たちが主体となって工夫となつて同じ目標に向かつて計画し、実施することができた。</li> <li>左記の諸会議に加えて「簡易版情報共有シート」を作成し、職員全体に支援を要する生徒の周知を徹底した。その結果、該当生徒に対して直に対応する教職員だけでなく学校全体で支援方法を検討し実践しようとする体制になりつつある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>来年度からコロナ禍以前の形態に戻ることが想定され、学校行事の規模が大きくなること予想される。数年ぶりの大規模開催となることから安全対策など綿密な計画と外部との連携が必要となる。</li> <li>SNS関連のトラブルの未然防止のための啓発や、発生した際の対応について、検証する必要がある。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台タブレット端末を活用した教育活動を展開していることから、SNS関係などのトラブルが多くなっていると感じる。心のケアを大切にしてほしい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での制限もあり、従来のような活動を行うことができなかったが、生徒会行事を中心に生徒の主体的な活動をすすめることができた。これにより生徒の主体性や社会性、協調性を高め、自己肯定感を高めることができた。</li> <li>SNSにまつわる悪質な案件が生じた。生徒への啓発の検証が必要であることが再認識された。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>鎌倉警察署と密に連携し、特に生活安全課のスクールサポーターには毎週来校してもらい校内の巡回を行った。教員による巡回も一定期間継続した。</li> </ul> </li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>感染症対策にも留意しつつ、従来のような活動の実現を目指す。それに向け職員の意識や目指すべき方向性を明確にしていく。</li> <li>継続して警察署と綿密に連携を図りながら情報共有を密にして、学校としての毅然とした姿勢を示していく。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSの適切な使用方法の指導については関係機関の助けも得ながら、生徒に対する指導を継続して取り組んでいく。</li> <li>SCの勤務が2倍に増えることから、今まで以上にカウンセリングの回数を増やし、綿密な指導体制をつくる。また新たに導入されるSSWの活用も図る。</li> </ul> </li> </ol>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月10日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりのキャリア形成に則した支援体制の整備。</li> <li>難関国公立大学への合格者数を増加させる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実力テストの選定を見直し、定点観測データの確立に努め、経年変化を職員全体に還元する。</li> <li>昨年度大学入試結果の難関国公立大学への進学者2名、スーパーグローバル大学トップ型への現役進学率8.7%、国公立大学への現役進学率9.9%を超え、生徒の志望通りの進路が叶うよう一層支援する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>定点データを職員全体に資料提示し、解説する機会を確保する。</li> <li>難関大学合格生徒に共通する学習方法や学習習慣の確立方法を生徒に示し、学習の自立に向けた行動の確立につながるよう支援する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実力テストの結果を単年度ではなく、経年変化として職員全体に提示し解説できたか。</li> <li>生徒の意識改革の醸成に向け、『学習・キャリアワークブック』や合格者講話を活用出来たか。令和4年度入試の指標を超えることができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実力テストの結果を経年変化としてまとめ、職員全員に示し啓発できた。</li> <li>進路集会や合格者講話、『学習・キャリアワークブック』を活用し、生徒の意識改革に努めた結果、1年生2年生の実力テストの結果はこれまでを上回る結果となった。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>現在県内各学校は5年以内で転出する職員(初任・再任用)の比率が高いため、職員集団が経年変化を経験則として持つことが難しい。今後とも職員全体が同じ視点を持てるよう資料の活用に努めたい。</li> <li>丁寧な指導にはマンパワーが必要なため、勤務超過にならないよう配慮しつつ継続したい。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学志望のきっかけとして、教授の講演を聞いた、という例もあることから、鎌倉高校の同窓会を活用し、生徒の進路志望につながるような講演などを実施してほしい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>進路指導に明るくない教員でも資料を活用しながらクラスの生徒の指導ができるよう体制を整えることができた。</li> <li>昨年度に比して超難関大学への合格は1名にとどまったが、スーパーグローバル大学(トップ型)への現役進学率は9.3%、国公立大学への現役進学率は11.5%と昨年度を超える成果となった。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実力テストの活用について、各担任がさらに効果的に指導にあたることのできるような工夫を重ねる。</li> <li>現役進学率の向上を目指すとともに、自ら定めた目標を達成するために生徒自らが深い学びに取り組んでいくことができる学習環境を整備していく。</li> </ol>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールを軸として、地域、同窓会、保護者、大学、分教室等と連携・協働を深化させる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールを軸とした地域との共同により、地域に根ざした鎌倉高校の在り方を模索する。</li> <li>P T Aや藤沢養護学校分教室との連携を図り、学校行事において交流を図るだけでなく、職員・生徒がつながり意識することができる機会を積極的に作り出す。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールからでた支援に関する提言を学校運営に活用する。</li> <li>学校行事だけでなく、運営委員会、日頃の情報交換を通して、P T Aや分教室と本校生徒との交流・理解が深まり、互いに良い相互作用ができるよう支援を行う。</li> <li>P T Aと連携し、学校行事を中心に相互に連携をし、学校全体の活性化を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>具体的な数値目標を掲げた運営計画案を提示し、それに対する評価および必要な支援に関する情報を効果的に運用できたか。</li> <li>学校行事に加え、日頃から情報交換等の交流を通して、P T Aおよび分教室の生徒や職員と深い理解に基づいた協力関係を築くことができたか。</li> <li>各行事においてP T Aの参加および連携を深めることができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>具体的な数値目標を掲げた運営計画を提示し、それに対する評価および支援に関する情報を得ることができた。</li> <li>学校行事および生徒会活動の実施においてP T Aと連携を行うことができた。藤沢養護学校分教室との交流に関しては、昨年度同様の対面式に加え、鎌高祭にも参加してもらい、生徒間の交流の機会を設けることができた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校側、地域、両方より相互で協力する具体的な活動内容や支援できる内容を具体的に挙げた上で、それに対する取り組み状況を評価する必要がある。</li> <li>藤沢養護学校分教室との連携に関しては、コロナ禍前のように合唱コンクールでの交流機会を設ける等、協力関係を一層深めていきたい。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校が行ってきた取り組みをP D C Aサイクルに則り、客観的に評価して報告書に載せてほしい。</li> <li>P T Aとの連携を深めることができた。コロナ前に戻る中で、以前の活動内容が継続できるように活動してほしい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールでは今まで実施できなかったキャリア部会にも開催することができ、委員からの活発な意見を聴取することができた。</li> <li>P T A運営委員会とは良好な協力関係を構築し、定期的な運営委員会を通じて、活発な意見交換を行った。</li> <li>藤沢養護学校分教室とは鎌高祭への参加等を通じて職員相互の連帯は深まった。生徒どうしの交流は行うことができなかった。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>キャリア部会の複数回開催を目指し、生徒のキャリア支援につなげていくとともに、学力進学重点校エントリー校としての取り組みについても議論をする。</li> <li>藤沢養護学校分教室とは学校行事への参加だけでなく、支援学校のカリキュラム等にも位置づけた具体的な取組みも協力し推進していく。</li> </ol>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校一丸となって学校改革に臨み、安全で信頼される魅力ある学校づくりに組織的に取り組む。</li> <li>教員の働き方改革を推進するための意識改革を図る。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>事故を起こさないという共通理解を職員全員が持ち、組織として改善できる点は早い段階で整備をする。</li> <li>職員・生徒が災害時の避難方法の実践的イメージがもてる、災害に対する意識の高い学校づくりを行う。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>職員一人ひとりが個々の業務について内容や意義を明確に理解した上で、マニュアルに則って手順通りに進める体制をつくる。</li> <li>感染症対策に配慮しつつ、工夫して、昨年度より実践的な避難訓練、防災訓練、D I G訓練等を実施し全職員・生徒の防災意識を高める指導に取り組む。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>業務マニュアルについて都度の見直しや実施後の反省を毎回行うことができたか。</li> <li>特に入学者選抜について事故なく業務を終えることができたか。</li> <li>感染症対策を行いつつ、より実践的な避難訓練、D I G訓練等を実施し、具体的な災害等に対する意識を高めることができたか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>特に入学者選抜業務について、職員一人ひとりがマニュアルを適切に理解し業務にあたり、事故なく終えることができた。</li> <li>感染症拡大防止対策を行いつつ、昨年度実施できなかった全校生一斉避難の訓練、D I G訓練等を実施することができ、職員生徒の防災意識を高める指導に取り組むことができた。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各グループにおける業務マニュアルについては、それぞれのグループ内で工夫している。P D C Aサイクルを重視した業務改善、見直しを継続して行っていく。</li> <li>防災訓練では今年度実施できた全校生避難の訓練の経験を活かして、次年度は、出火場所や被災状況等に応じた訓練を実施できるかたちを模索したい。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災訓練では、地震に対する訓練だけでなく、津波に対する訓練も行ってほしい。鎌倉高校は避難地域に指定されていることから、地域の方々や観光客が避難してきた際に避難者を支援できるような生徒を育ててほしい。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>入学者選抜については職員全員がマニュアルを理解し、運営・採点含め事故なく終えることができた。</li> <li>指定校推薦業務をはじめ、その他の業務についてもグループごとに作業手順やマニュアルを作成し事故がなかった。</li> <li>校内での防災訓練は成果をあげることができたが、鎌倉市や自治会など地域と協働しての話し合い等を持つことができなかった。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>事故がなかったことに慢心せず、事故防止に向け特にP D C Aサイクルを意識した業務進行を行う。</li> <li>鎌倉市や自治会などの地域と連携する機会をつくり、できる限り地域のニーズも考慮した防災計画の策定を目指す。</li> </ol>